

日野郡への移住・定住者座談会



鳥取県の人口は、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向が続いています。平成20年に人口が60万人を切ったことを契機に、県も移住定住施策を前面に出して取り組んでいます。1月20日、日南町、日野町、江府町に移住して来られた住民の方と移住定住に携わる専門職員に集まっていただき、「日野郡への移住定住」をテーマに座談会を開催しました。

藤本 皆さん、こんにちは。今日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。県外から日野郡へ移住された方は、平成27年度は95人、平成28年度上半期では53人と、ここ数年で多くなってきました。せっかく日野郡を選んで移住して来ていただいたのですから、気持ちよく定住へと結びつけてほしいと願っています。ぜひ皆さんの率直な意見をお聞かせください。

1 日野郡への移住のきっかけ、実際に住んでみた感想

藤本 それでは皆さんに移住先として日野郡を選んでいただいた決め手や、実際に住んでみた感想をお話いただきたいと思っています。

加藤 日南町への移住は自然が決めた手でした。「ふきのとう」がたくさん生えているのを見た夫が、「言うこと聞かぬから、ここに住まわせて!」と。(一同笑)

日南町の景色は綺麗で、キツネや野ウサギがいて毎日感動です。ただ、雪はさすがに慣れません。

以前住んでいた大阪では蛇口を開けば水が出る、栓を捻ればガスが出るという生活だったので、井戸ポンプやボイラーなど初めて見るものばかりで「何だろう、これは?」と思いました。ご近所さんたちに教えてもらって助られています。

時任 私は小さい頃から日本国内やアメリカの各州で暮らしてきました。移住に対する自分のハードルも低く、行った先の文化や言語

などを受け入れる習慣が身に付いていましたので、特に困ったことはありませんでした。

小学校1年生の子どもに故郷と呼べるものを作ったあげたいと思いい移住先を探していたときに、日野町で偶然小学校の校長先生に出会い、「この先生なら子どもを任せられる」と思ったのがきっかけです。住んでみて感じたのは、JRの本数が少なく公共の交通機関が不便だなあと。

糸田川 当時は条件が厳しかった農業研修生ですが、何度か訪れて馴染みのあった日南町に応募して合格したのがきっかけです。「緑のあるところ」で農業をやりたい!という気持ちで日南町に住んでいます。元々僕の一族は四国の出身で山林などを持っているので、四国で就農という選択肢もあったのですが、日南町の方が利水など農業をやりたいというところもありました。

2 移住定住を町や県が進めるときに大切な視点

藤本 それでは次に、移住定住の施策を進めるために必要な視点について聞かせてください。

井上 「住宅改修用いくら出しますよ」というような補助金よりも、即入居できる家の方が移住を進めるには効果的です。移住希望者が求めるのは田舎暮らしよりも駅や店に近いなどの利便性であって、雪など冬でもないと皆さんおっしゃいます。駅の付近にすぐに入居できる改修を終えた空き家を確保しておいて欲しいですね。役所の人が移住者を求めているも、地域の受け入れ体制ができていないという地域もよくあるんですよ。そのような地域に行っても辛い目に遭うだけです。

藤本 お話を伺うと、改めて移住定住相談員さんの仕事の大切さと難しさを感じますが、期待はとて大きいと思います。

3 移住定住を町や県が進めるときに大切な視点

藤本 かつては「移住者なら誰でも来てほしい」という時代もありましたが、今は来て欲しい方が地域がリクエストする動きも出て来ていますよね。地域が求める人材についてはいかがでしょうか。

加藤 「誰でもよいから来て欲しい」と町が思っているのを誤解している方もいます。「行けばすぐ住めるんですよ」というような、計画性のない方は困ります。やはり地域の人は移住者と一緒に地域を盛り上げていきたいと考えていらっしゃると思いますので、求められるものが上手くマッチングできればよいなあと思っています。

4 移住者が地元で溶け込むために必要なこと

加藤 昨年の配の相談者の方で、近所付き合いはしたくないとおっしゃる方がよくおられます。でも日南町は地域に高齢者も多いので、助け合っている生活してもらいたいと思っています。最初から付き合いが面倒という相談者の方には、「日々の交流がないと助け合いもできないので、しんどいかもかもしれませんよ」というアドバイスをして

5 求められる移住者像

藤本 かつては「移住者なら誰でも来てほしい」という時代もありましたが、今は来て欲しい方が地域がリクエストする動きも出て来ていますよね。地域が求める人材についてはいかがでしょうか。

加藤 「誰でもよいから来て欲しい」と町が思っているのを誤解している方もいます。「行けばすぐ住めるんですよ」というような、計画性のない方は困ります。やはり地域の人は移住者と一緒に地域を盛り上げていきたいと考えていらっしゃると思いますので、求められるものが上手くマッチングできればよいなあと思っています。

メンバー紹介



糸田川 啓さん
兵庫県出身、平成22年日南町に農業研修生として移住。平成24年からトマトで新規就農。



加藤 智子さん
日南町移住専任相談員。大阪府出身、平成27年に日南町に移住。



田中 正之さん
鹿児島県出身、平成21年に日野町に移住し米作りに従事。平成25年には日野町出身の妻と世界一周、33カ国に滞在。



時任 芽生さん
日野町移住定住コーディネーター。鹿児島県出身、平成28年8月に日野町に移住。



渡邊 俊一さん
境港市出身、平成25年に江府町に移住。地域の方に教わりながら農業を勉強中。



井上 由美子さん
江府町移住定住相談員。県内出身。



藤本 好正さん
鳥取県西部総合事務所日野振興センター 所長

す。一番大変なのは、出産、育児のとき、そもそも常勤医師がいる産婦人科と小児科がないので、米子まで通わなくてはいけない。特に緊急時が心配なんですよ。

3 仕事について

藤本 仕事を見つけないのは大変な作業ですよ。例えば、半農半Xで生計を立てる場合、このXにはどのようなものがあると思いますか。
※半農半X：農業と他の仕事を組み合わせた働き方

糸田川 僕はトマト栽培が軌道に乗っていますが、Xとして家庭教師やデマンドバスの運転手もやっています。日野町のライフスタイルとして、半農半Xで生計を立てることができるといえることを全国にPRしてほしいかな。

田中 僕はXとして草刈りや屋根の雪下ろしのニーズが高いので、結構小銭を稼ぐことができますよ。地域の皆さんにも喜ばれますね。

4 移住者が地元で溶け込むために必要なこと

糸田川 移住者はいつまで移住者の扱いなのでしょう。僕は地元の場合にも出席して、親世代、祖父母世代とも渡り合わなければならない立場です。よほど自分の方が地元で詳しく、地元の同世代と全く意見が合わないと感じることもあるんですよ。(一同笑)

渡邊 単身者は地元の会合に全部参加しないといけないので大変ですね。会社員のスケジュールに集落が合わせるので、土日に仕事がある人は出席が難しくなっています。

藤本 そのような点では「地元の人と折り合えない」というような話を聞くこともありますね。「田舎に来るのはいいけど、付き合いが面倒だ。」というような相談は結構あるものなんです。

加藤 ご年配の相談者の方で、近所付き合いはしたくないとおっしゃる方がよくおられます。でも日南町は地域に高齢者も多いので、助け合っている生活してもらいたいと思っています。最初から付き合いが面倒という相談者の方には、「日々の交流がないと助け合いもできないので、しんどいかもかもしれませんよ」というアドバイスをして

います。

糸田川 そういう人たちは、田舎のいいところ取りをしたいということなのでしょうかね。(一同笑)

時任 実際、移住されてからクレームをいただいたことがありません。だから、移住希望者とのマッチングを行うために自治会長一人一人に順次お会いし、地域の特性を把握するようにしています。地域と相談者の両方が不幸になるような組み合わせは避けるようにすることも大切です。

田中 僕は日野町に来てから今の集落で4箇所目ですが、確かにそれぞれ特色があって全然違いますね。

渡邊 作家のような職業の方など、「都会よりも田舎で静かに仕事をしたい」という人もいますので、例えば出稼免除であったり、近所付き合いをしなくても良いという特別な地域のようなものを作って、住む場所と仕事を考える所のみ提供するというのはどうでしょうか。

糸田川 町民の全てが移住者を求めているわけではないことも知っ

保しておく方がよいと思いますね。

時任 私は家屋だけではなく、ライフスタイルなど移住後のイメージを示してあげることが大切だと思います。そこで、地元の事業所の従業員の方から話を伺い、釣りや山菜採りなどのライフスタイルをパンフレット等で紹介するよう工夫しているんです。

田中 やっぱ仕事のために住む人が多いと思うので「このような仕事をしませんか」という呼びかけが効果的じゃないかなと思います。

糸田川 僕は移住定住専門のコンシェルジュのような人が欲しいですね。

藤本 移住に当たっては、住むところや仕事のほかに、子どもの教育環境が大切だとよく言われますが「子どもの教育について不安です」というような相談はありますか。

加藤 相談者の中には、都会のマンモス校では校舎もプレハブで校庭も小さくて、それが嫌で日南町に引っ越して来たいとおっしゃる方もいます。

井上 生徒数が多すぎても少なすぎても困る、ちょうどよい数のところはないか、という相談もありました。ちょうどよい規模って難しいですよ。(一同笑)

田中 日野郡では、高校生になると学校への送迎が大変だと聞きま

時任 隣の家にどんな人が引っ越してきても、代々その地域に居る方は引っ越せませんよね。どのような人を地域が求めているのかの見極めがとても大切ですよ。

藤本 東日本大震災以降、地方での暮らしを求める動きも出て来ました。その中で、例えば或る町では「インシシ」を駆除してくれるハンターや、伝統文化の指導や継承をしてくれる人が来てくれたらいいなあ」というように、町から人材を求めたい動きも出てきています。皆さんの地域でも、どのような人に来て欲しいかをリクエストしていくこともこれからは必要だと思います。これからは皆さんの知恵と元気に期待しています。

座談会の後、「このような場合は今までなかったのですが、とても有意義だった」との感想をいただきました。移住して来られた方や地域の皆さんと知恵を出し合って、日野郡を盛り上げていきましょう!